



東京女子医科大学病院

# 医療連携ニュース

2013年 夏号



副院長  
川島 眞  
(管理部門担当)

## ごあいさつ

管理部門担当の副院長を務めております。管理部門には、大きく病院事務部門と病院機能・情報管理部門があります。後者に新たに病院機能管理室が設置されることになりました。当院では、本年2月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、本年6月に高い評価で認定されました。その結果は本号で病院機能評価受審準備室の清水優子室長からご紹介がありますが、今後とも病院機能の維持・向上を目指すためには恒常的な組織の構築が必要と判断して設置するものです。今回の受審で、高く評価された内容に関しては努力を怠ることなく持続させ、まだ向上の余地ありと判断された項目に関しては、さらに高い評価が次の受審時に獲得できるように弛むことなく邁進する所存であります。地域医療機関から一層の信頼を得るために不断の努力を続けて参ります。何卒、よろしくお願い申し上げます。



病院機能受審準備室  
室長  
清水 優子  
(神経内科 准教授)

## 病院機能評価について

病院機能評価とは、第三者機関(公益財団法人日本医療機能評価機構)より認定されるもので、病院が提供するあらゆるサービスの質の向上を図ることを目的としており、患者さんが安心して質の高い医療を受けるために、病院の現状や将来へ向けた機能を評価するものです。この審査を受け認定を得ることは、病院の機能、安全管理体制、療養環境などが一定の水準に達していると評価された証です。2011年11月に病院機能評価受審準備室が立ち上がり、室長を担当いたしました。当院では、「オール女子医大」をモットーに準備を進め、600項目以上の膨大な課題をクリアすべく、職種を超えた連帯感とチームワークで取り組みました。その結果、2013年6月に高い評価で、(財)日本医療機能評価機構から、病院機能評価ver.6.0の認定を受けました。とくに当院の社会支援部は、「地域における役割と連携について、全診療科医師から構成される医療連携推進委員会の活発な活動などきわめて適切な地域連携が行われている」と、非常に高い評価を戴くことができました。

東京女子医科大学病院では、今回の経験を活かし、より一層みなさまのご期待にお応えすべく努力し、患者さんならびに地域の先生方から選ばれる質の高い医療を提供できるよう貢献してまいりたいと思っております。これからも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。





小児院内教育支援室  
室長

**服部 元史**

(腎臓小児科 教授)

## ■ ごあいさつ

2013年春より、新宿区立余丁町小学校の特別支援学級として東京女子医科大学病院内に院内学級(「わかまつ学級」)が開設されましたのでご案内申し上げます。

東京女子医科大学病院は、小児医療についての総合的な診療、教育の実践を目的として小児総合医療センターを設けて参りました。さらに、小児入院患者への教育環境の提供も小児総合医療センターの大切な役割であることから、その具体策として、義務教育を受けている

小児入院患者の学習環境の提供と退院後の復学に向けた支援を目的として、新たに小児院内教育支援室を設け、そして「わかまつ学級」が開級されました。

「わかまつ学級」の開級は、東京都ならびに新宿区教育委員会をはじめ多くの方々のご尽力の賜と、この場をお借りして心より感謝申し上げます。2013年3月28日に開級式が、そして同年4月8日には始業式がおこなわれました。「わかまつ学級」は第1病棟3階に位置し、校札は書道家の武田双雲先生より、しなやかで力強く、優しさに満ちた文字を贈って頂きました(写真1)。

現在、入院中の多くの子ども達が楽しく勉強をしています(写真2)。子ども達の笑顔と嬉しそうな様子を見ると、こちらも幸せな気分になります。

「わかまつ学級」についてのご相談(入級の手続きや費用など)はどのようなことでもお気軽に東京女子医科大学病院社会支援部までご相談下さい。

今後も引き続き、余丁町小学校や教育委員会の先生方と密接な連携をとりながら、また、児童や保護者の方々のご意見を伺いながら、日本中で一番楽しい院内学級を目指して、「わかまつ学級」の運営に携わって参りますので、ご支援のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



写真1: 余丁町小学校前校長(左)と立元院長(右)



写真2: 授業風景



時間割



パンフレット



## ■ 脳神経外科

### わかまつ学級と笑顔指数

小児院内教育支援室 副室長 **藍原 康雄**  
(脳神経外科 講師)

「先生、いってきます!」これまでの朝の回診時の子ども達との挨拶の「おはようございます」の言葉に加えて、2013年4月から、新鮮な力強い元気な「いってきます」が笑顔と共に子ども達の日常挨拶となりました。毎朝9時45分は、院内学級「わかまつ学級」への通学時間です。

当科では、今年4月から10歳の男女児童3人が、わかまつ学級へ原籍校から転籍を希望され通学を開始しました。わかまつ学級へ通学するため、それまでより皆早起きとなり、通学準備のためパジャマから普段着に着替える時にも笑顔が増えました。また、夕方には明日の授業に向けて皆で集まって宿題をする時にも笑顔一杯です。もし、入院中の子ども達の日々の笑顔の頻度を「笑顔指数」なるもので測定できるならば、わかまつ学級効果により子ども達の笑顔指数が急上昇したことは間違いのないでしょう。





脳神経外科(小児部門)には、全国から難治性脳疾患の患児たちが集ってきます。その中でも小児脳腫瘍患児達の入院加療期間は他の疾患に比較して非常に長く、長期の場合は1年近い入院加療を要する場合も珍しくありません。また、近日小児がん拠点病院の選定が国・東京都で行われていますが、選定基準項目の中で医療技術レベルばかりでなく医療環境基準の充足が詳細に定められており、院内学級の存在も必須項目となっています。

病院内での長期闘病生活という子ども達にとって「非日常」的な入院生活の中に、子ども達の「日常的な笑顔をもたらしてくれた「わかまつ学級」に、心から感謝を申し上げます。



## ■ 腎臓小児科

助教 石塚 喜世伸



腎臓小児科では、ネフローゼ症候群や慢性糸球体腎炎、さらに透析や腎移植の治療を行っており、入院期間が長くなる場合が少なくありません。「わかまつ学級」が開級したことで、入院に伴う長期欠席を余儀なくされることはなくなりました。また、迅速な医療対応が可能な状況での通学が可能です。既に、当科入院患者で複数名が元気に楽しく通学しています。

## ■ 小児科

准教授 平澤 恭子



小児科では気管支喘息、肺炎の患者様や、小児神経疾患、筋疾患などの患者さんなど幅広い疾患の患者さんの入院を引き受けております。

その多くの患者さんは短期間の入院で改善し、家庭、さらには通常の学校へと戻って行かれます。しかし、免疫性疾患や神経・筋疾患の患者さんの中には、長期の治療を要する患者さんもおおいです。これまでは、ご家族が長く学校教育から離れる不安を訴えられたり、お子様自身も勉強が遅れる焦りや長期入院によるストレスを感じていると思われる場合があります。4月から院内学級が創設されたことで、そのような問題点が解決に向かい、長期の入院を必要とするような治療も積極的に進めることができるようになりました。また当科は成長・発達をみていく総合小児科の役割も担っているため、長期の入院を抱える小児総合医療センターの他の部門とも連携をとり、院内学級で学ぶ子どもたちのQOLの向上にも協力させていただければと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

## ■ 小児外科

臨床教授 世川 修



小児外科は、日本小児外科学会指導医が常勤する認定施設であり、年間約350例の小児外科手術を行っています。出生直後の新生児期から学童期までの、頭頸部・呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌臓器・体表・小児腫瘍などの先天性・後天性外科疾患を対象としています。特に、小児腹腔鏡・胸腔鏡手術や消化器内視鏡治療などの低侵襲手術が多く、入院期間も短縮化されていますが、小児腫瘍、ヒルシュスブルグ病類縁疾患、短腸症候群などの患児は長期入院となることがあり、わかまつ学級で勉強をさせて頂けることが、患児と御両親にとって大きな喜びと安心感につながると考えられます。

## ■ 循環器小児科

講師 稲井 慶



循環器小児科は主に小児期に発症する心臓病の診断と治療を担当している診療科です。

病棟には1日平均30人の患者さんが入院しています。先天性心疾患や心臓移植が必要な心筋症の患者さんなど多くの子供たちが入院闘病生活を送っています。重症な心疾患では長期入院を余儀なくされる場合も少なくないので、わかまつ学級の開校はわれわれにとって大きな望みでした。現在2名の患者さんが楽しく勉強させてもらっています。



# セミナーのご案内

## 東京女子医科大学 第56回 G-COEセミナー

共催：糖尿病・代謝内科、糖尿病眼科、眼科

- テーマ：iPS 細胞を用いた網膜再生治療
- 講師：高橋政代 先生  
理化学研究所  
発生再生科学総合研究センター  
網膜再生医療研究開発プロジェクト リーダー
- 日時：平成 25 年 9 月 5 日 (木) 午後 6 時～7 時
- 会場：東京女子医大病院 総合外来センター 5 階 大会議室

費用：無料

詳しくは <http://twins.twmu.ac.jp/gcoe/> をご覧ください。

## 東京都緩和ケア連携推進事業 「オレンジバルーンフェスタ2013」開催報告

東京都緩和ケア連携推進事業として、区西部(新宿・杉並・中野)の地域がん拠点病院と地域医療機関、訪問看護、薬剤師、ケアマネジャーがチームとなり、オレンジバルーンフェスタ2013(6月8日、6月9日)を開催しました。

会場の新宿西口広場イベントコーナーには、買い物や散策途中の方々が立ち寄られ、「緩和ケアってなに?」などの講演に耳を傾け、体験コーナーでは介護

ベッドの寝心地を確認されていました。2日間で約2300人の方が参加してくださいました。

病院と地域の医療職・福祉職が一丸となって取り組んだ経験をもとに、今後も緩和ケア推進事業を形にしていきたいと考えております。何卒、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



## 医療連携窓口のご案内

当院と地域の医療機関やかかりつけ医の先生方との連携の窓口として、紹介元の先生方からのお問い合わせや、電話やファクシミリによる外来診療やセカンドオピニオン外来の予約を行っております。FAXの専用申込用紙は当院ホームページ 社会支援部の「医療関係者の方へ」から専用申込用紙がダウンロードできます。是非ご活用ください。

\*予約専用電話 03-5269-7160 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>

\*FAX診療予約 03-5269-7387 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>

